

事業番号3		平成 26 年度事務事業評価調書				資料1	
事業コード		01050201		区	分	☐ 実行	☒ 経常
事務事業名		資源リサイクル推進事業		担当部署名		住民課	
				作成責任者職氏名		課長 池西 昌夫	
				内線		310	
第4次総合計画体系		(基本柱)		(基本施策)		(細施策)	
		01安全・安心・環境		05ごみ減量化・再資源化の推進		02ごみ再利用の推進	
実施期間		☐ 単年 ☒ 継続 (平成7年度～ 年度)		実施方法		☐ 直営 ☒ 委託 ☐ 補助等	
根拠法令等		☒ 有 ☐ 無		法令等の名称		義務付け ☒ 有 ☐ 無	

I 事務事業の概要<Plan>

(1)事務事業の目的及び内容		(2)対象(誰を対象とするのか)	
①目的 資源として有効活用できるものを容器包装リサイクル法の分別区分によって処理し、また、リサイクルすることにより循環型社会の構築を目的とする。 ②内容 廃棄物のうち空き缶・空きビン、ペットボトル、プラスチック及びその他の金属類を委託事業者の処理施設で分別し、資源として売却もしくは再生資源材として行政負担でリサイクルを行う。また古紙古布のリサイクルについて地域の集団回収事業の補助を行う。		村民・事業者	
(3)期待される効果(本事業によって対象者をどのような状態にしたいのか)		(4)事務事業を進める上での課題や問題	
リサイクル、再利用、減量化の推進を図ることにより、資源の有効な活用に寄与する。		分別収集の徹底と、さらなる分別の細分化が求められている。	

II 事務事業の実施<Do>

(1)事務事業の事業費及びコスト費								
		24 年度 実績	25 年度		26 年度 事業費(見込)	27 年度 事業費(見込)		
			事業費(予算)	実績(見込)				
事業費(見込含む)(千円)(A)		10,214	8,716	10,123	8,913	8,913		
財 源 内 訳	国庫支出金							
	府支出金							
	分担金・負担金							
	使用料・手数料							
	起債							
	その他の特財	1,485	784	1,654	748	748		
	一般財源	8,729	7,932	8,469	8,165	8,165		
人 件 費	一般職員所要人員(人)(B)	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20		
	一般職員人件費(平均給与×(B))(千円)(C)	1,109	1,178	1,178	1,178	1,178		
総コスト費(千円)(A+C)		11,323	9,894	11,301	10,091	10,091		
人口あたりコスト(円)		1,869	1,633	1,865	1,665	1,665		
(2)成果指標等								
番号	指標区分	指標名称	単位	25 年度			26 年度 目標値	27 年度 目標値
				目標値	実績値	達成率(%)		
①	目標指標	有価物集団回収量	t	310	276	89%	280	280
②	目標指標	リサイクル再生資源引き渡し量	t	142	106	75%	110	110
③	目標指標							

○目標指標評価値(達成率平均値) 164% / 2 = 82% (A)

Ⅲ 事務事業の評価<Check>

(1)成果の自己検証			
評価項目	評価結果		評価の理由及びその考え方
①妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	3	4. 大いに貢献している 3. 概ね貢献している 2. あまり貢献していない 1. 貢献していない	廃棄物のうちの缶ビン、ペットボトル、プラスチック及びその他金属類を分別し、再生資源材としてリサイクルやごみの減量化を推進して資源の有効利用に寄与している。
②有効性 ※期待された効果が得られているか	3	4. 効果がある 3. 一応の効果がある 2. あまり効果がない 1. 効果がない	廃棄物のうちの缶ビン、ペットボトル、プラスチック及びその他金属類を分別し、再生資源材としてリサイクルやごみの減量化や資源の有効利用の効果がある。
③効率性 ※効率的に進められているか	3	4. 非常に効率は良い 3. 概ね効率は良い 2. あまり効率は良くない 1. 効率は良くない	住民の協力により廃棄物のうちの缶ビン、ペットボトル、プラスチック及びその他金属類を分別にて排出され、収集運搬を行い、実施している。
④公平性 ※受益や負担が公平になっているか	3	4. 公平である 3. 概ね公平である 2. 少し偏りがある 1. 公平ではない	全住民に同じ方法の分別により排出の勧奨を行っている。

○事務事業評価値 (①～④の合計／16)	12	／16	75%	(B)
-------------------------	----	-----	-----	-----

(2)検証結果			
目標指標評価値 (A)	事務事業評価値 (B)	総合評価値 (A) + (B) / 2	評価ランク(改善の目安)
82%	75%	78%	b

a: 90%以上(現状維持又は拡充) d: 30～49%(休止・廃止又は縮小)
b: 70～89%(見直し又は現状維持) e: 30%未満(休止・廃止)
c: 50～69%(縮小又は見直し改善)

Ⅳ 事務事業改善の方向性<Action>

(1)改善の方向性	
①改善の方向性(自己評価)	
B	← A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
②改善の方向性の理由、改善する上での具体的な改善策や課題等	
課題としては、ごみの減量化に対して、分別の細分化が求められており、さらなるリサイクル対策が必要と考える。	

Ⅴ 事務事業評価結果(担当者は記入しないでください。)

(1)政策担当結果	
循環型社会の中、ごみの再資源化は、環境問題の観点からも積極的に取り組むべきものである。そのため継続的な取り組みが必要であり、さらなる再資源化の取り組みを推進すべきと考える。	B A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(2)第三者による有識者会議結果	
	A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(3)行政経営戦略会議結果	
	A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止